

会 報 《第486号》

次代を築くヒューマン・ネットワーク
一般社団法人兵庫県建築会



令和8年 10月1日

目 次

I 月例会（第542回月例会）

「金利と為替で紐解く世界の金融センター」

新生コベルコリース株式会社

常勤監査役 小川 裕之 氏 ……2頁～5頁

II 会員寄稿

「兵庫県一低い高架橋のある風景」

株式会社岡工務店 代表取締役 岡 澄彦 氏 ……6頁～8頁

III 理事会の開催 ……9頁

IV お知らせ 行事予定 退会報告 編集後記 ……9頁



I 第542回月例会

「金利と為替で紐解く世界の金融センター」

新生コベルコリース株式会社 常勤監査役 小川 裕之 氏

【会長挨拶】



会員の皆さま、こんにちは。2か月ぶりの月例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

夏から季節は移り、各地で秋雨前線の動きに伴い線状降水帯による豪雨災害が発生しています。熊本では、前回の地震から10年の節目にマグニチュード7.1の地震に見舞われ、八代市庁舎では免振装置の支承が大きく損傷しました。また、大地震後のショッピングセンター爆発事故など、新たな想定外の災害が起きました。被災された皆様に心からお見舞いを申し上げます。

まず、先ほどの会員企業からの情報提供では、久保田セメント工業株式会社様より、ご説明をいただきました。創業120年という長寿企業ならではの技術力と歩みに深い感銘を受けました。今後ますますのご発展を心より応援申し上げます。

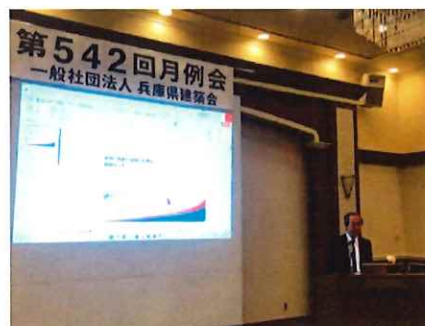
さて、8月は当会の事業もなく、少しゆっくりと過ごさせていただきました。しかし、7月下旬から8月にかけては記録的な暑さとなり、今年から気象庁が定義した「酷暑日」（最高気温40度以上）を多くの地点で観測しました。建設業界では、夏場の現場環境における熱中症対策として、体調確認、水分補給、休憩の徹底が当たり前となりました。ここ数年の日本の暑さは“異常”ではなく、平年の気温自体が上昇していると考えざるを得ません。海外でも深刻な状況が続いています。ヨーロッパでは長期の熱波が報告され、ネパール

ではヒマラヤの氷河と岩石が崩壊し、大規模な土石流による甚大な被害が続いています。これらの背景には地球の地球温暖化があり、各国が英知を結集し、一刻も早く人間の生命を守る気候変動対策を進める必要があると強く感じています。

本日の月例会では、新生コベルコリース株式会社 常勤監査役の小川裕之様を講師にお迎えし、「金利と為替で紐解く世界の金融センター」をテーマにご講演いただきます。日本は金利のある世界に戻って2年が経ちました。今春の中東情勢の悪化を受け、長期金利は30年ぶりに3%台へ上昇しました。また、日銀は政策金利を1.25%に利上げへと観測されており、円安是正に動くのではと報じられています。高市政権は、2年間に限り食料品の消費税率を1%引き下げる方針を示しましたが、税収減の代替財源については説明がなく、来年度予算は大幅増の見通しです。積極財政は公共工事の増加につながり、建設業界にとっては追い風となる一方、財政悪化への懸念もあります。財政規律の立て直し、そして日銀の利上げが今後でも続く可能性など、今後の景気動向に繋がり、企業経営者として注視すべき点は多くあります。

経済構造がデフレ型からインフレ型へと転換した現在、長らく超低金利のもとで経済活動を行ってきた私たちにとって、金利が存在する“正常な世界”への変化は戸惑いもあります。本日の講演から多くを学び、健全な企業活動の一助としてまいりたいと考えております。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。



会場風景

金利と為替で紐解く世界の金融センター



1. 外国為替取引

(1) 外国為替市場

外国為替市場には、株なら東京証券取引所、魚なら築地の市場というような場所（建物）はなく、また、東京市場といっても世界中の銀行が取引できる状態で、東京時間のマーケットという方が現代では馴染みます。昔はブローカー経由だけで、銀行同士の直接取引が認められていませんでしたが、プラザ合意の頃から、ダイレクトディールというブローカーを通さず銀行間の直接取引が当局によって認められるようになりました。

世界の為替の取扱高は 9.5 兆米ドル(2025 年 4 月中 1 日平均)で、BIS 国際決済銀行が 3 年に 1 度調査していて、今に至るまで、ずっとロンドンが世界最大の為替のマーケットです。9.5 兆米ドルの約半分の 4.7 兆米ドル（一日平均）の取引量があります。ロンドンはグリニッジ標準時を生かして真ん中の時間帯で取引ができる強みがあるからと思われます。

かつて、東京、ロンドン、ニューヨークが三大市場と言われていましたが、東京は徐々にその地位が落ちていき、今はロンドンの 10 分の 1 しか取扱いがなく、香港、シンガポールにも負けてアジアでも 3 番目になっています。

(2) 市場介入

市場介入は、正式には外国為替平衡操作と言われています。為替介入については、1993 年からは最近までほとんどドル買い円売りでした。1 ドル 80 円、70 円という時代になり、ドルを買い支

えて円を売るという形で取り組んできました。それが今は、円を買ってドルを売るという形になっています。財務省のホームページに 1991 年 4 月以降の取引実績が公表されています。表に出ている限りでは、円買いが約 33 兆円、円売りが約 66 兆円で、差額が約 33 兆円もあり、その分、基本的にはドルの持ち値のほうが圧倒的に低くなっています。これから考えると日本は相当な為替益が出ていると思われるのですが、それについて語られるところは聞いたことがありません。



(3) 為替レート・決済システム

米国ドルは、世界の基軸通貨で特別な関係にあります。基本的に外国為替取引はドルを基軸として、ドルを中心に売買されており、ユーロ円やポンド円も、各々対ドルのレートから計算しています。BIS のサーベイに出ていますように、今でも世の中の取引の約 9 割は対ドルの取引です。銀行間ではポンド円やユーロ円を直接取引せず、各々対ドルで取引し、ポンド円などの取引を組み立てます。

為替レートには、自国通貨建て（例：1 米ドル = 160 円）と外貨建て（例：1 英ポンド = 1.35 米ドル）があり、基本的には、ドルが幾らかで値段を出しています。外国為替市場のレートと窓口で現金に交換するレートは同じではなく、TTS、TTB、仲値、キャッシュセリングなど色々なレートがあります。

仲値は原則として 1 日に 1 回、銀行の窓口等に来られる方の両替等のためのレートの基準として決めるものです。例えばキャッシュセリングは仲値よりかなり高くなっていますが（円安）、これは、ドルの現金を保有しておくコストを加味しているからです。

また、TTS、TTB は、貿易外為や電信送金などに使われるレートです。NHK ニュースでドルやユーロのレートが2つ書いてあるのは、オファーレートとビッドレート、売値と買値を両方示しているからです。



為替は、各々の通貨を決済して初めて取引が成立します。例えばドル資金はその通貨を発行しているアメリカにあり、各々の銀行はアメリカにある提携銀行にドル資金を持っていて、預け、動かしています。ドルと円の取引では決済に時間差があり、東京でドル売り、円買いをした場合、円を相手に支払うのは東京時間で行い、受け取るのは14時間ぐらい経ったあとのニューヨークで行うため、受け取れないリスクがあり、これをヘルシュタット・リスクといいます。それが今後できるだけないように、CLS システム（多通貨同時決済システム）があり、ニューヨークにある専門の銀行に任せて同時決済をするようにしています。世界の大体5割位はこれを行っています。

また、SWIFT は、お金を動かす通信手段の一つなのでロシアがウクライナに侵攻した際、SWIFT を停止されましたが通信手段が何かあればお金は動かせるため、完全な経済封鎖にはなりません。お金を動かさなくするには、例えばアメリカの銀行にあるドル資金口座を凍結しなくてはなりません。ただし、これは国際法上の観点から簡単ではないものです。

為替には現物市場だけではなく IMM という先物市場があり、シカゴ・マーカント・エクスチェンジという先物市場で通貨だけではなく、木材、豚など色々な商品を扱っています。現物がなくても最後に締めがあり、そこで差金決済で処分する先物の市場です。IMM の日本円のレートは一般の為替レートとは少し違い、ここに限って言えば、円が豚とか木材と同じで物としての扱いになっています。

2. 資金取引

(1) 金利

金利と為替で違うのは、為替は市場介入をやっても、結局は政府の思うとおりにならない場合が多いのです。為替は相対で民間の金融機関同士がやり取りしています。一方、金融市場は、中央銀行が資金の調節をするという首根っこを握っているの、ある程度思うようになります。ファンダメンタルズ、購買力平価という言葉もあり、国の勢いが最終的には為替の交換レートにつながってきます。

それに対して金利は、日銀の政策決定会合で政策金利を上げるといったら、金利が上がっていきます。金融市場では、短期資金を日銀に預け金として日銀にお金を預けないと、金融機関としてやっていけないルールがあります。また、コール市場という短期資金市場、オーバーナイトの資金市場を中心に取引をしています。長期金利はあくまで国債、10年もの国債であり、国の信用で10年の資金調達を行っており、目安にはなります。金利が上がろうだというマーケットの動向、それから政策金利で短期金利の動向などが分かり、その中で銀行は個別の対応をしています。金利は一度動き出すとなかなか逆方向には動きにくいものです。

金利の指標としてかつて LIBOR がありました。金利スワップでは短期は3か月 LIBORなどをベースにしていたのですが、イギリスの銀行の一部が本来あるべきではない低金利を出して歪めていたこともあり、公表、リファレンスには使わなくなりました。東京でも TIBOR という言い方がありましたが、結局止めて、今は日本では TONA の金利を参照することが主流になっています。



(2) 通貨危機

資金取引と通貨の複合体として、事件が色々90年代に起こりました。まず欧州通貨危機では、ERM という、ヨーロッパの統合される前の予備段階で各々の各国通貨の為替レートの変動幅を一定に抑えようとしていました。

しかし、為替レートは国の力に左右されます。イギリスが大分弱っていたところに、ヘッジファンドのジョージ・ソロスが狙いをつけ、ポンドをすごく売って大混乱になりました。イギリスのバンク・オブ・イングランドは、金利で対応しようとして、公定歩合を1日に2回も上げざるを得ないこともありました。為替はコントロールできず、国としては為替介入でポンド買いをしても、ある程度資金に限界があります。そこで、金利を高くして、ポンドを売ろうとする原資が高くなると売れなくなってくるので、金利を高くすることで締め付けをしていきました。92年の欧州通貨危機の時オーバーナイトの金利が150から200%、スウェーデンでは500%になりました。通貨危機の際、為替が大きく各々の通貨安になるときの対抗手段としては、最後は金利を高めることになります。

97年にはアジアの通貨危機があり、タイ、インドネシアなどは経済成長していて、その拠り所が米国との取引だったため、ドルペッグ制といって、ドルとのレートと固定しようとしていました。

しかし、経済にひずみが出てきた時代になり、中国が勃興してきたところで、弱いとらんだヘッジファンドなどが、各々の通貨売りドル買いを仕掛けました。翌年1月にはパーツは1ドル50パーツを超えと半値以下になり大混乱になりました。そこでも通貨を守るためには、金利を上げるしかありませんでした。香港では香港ドル防衛のため香港ドルの金利は100%超えになりました。

結局は、国が何かしようという際は、金利の方に回ります。一旦は、そのメッセージとしてこうなるよというところは、為替の介入などがありますが、むしろ根幹としては、金利の方は皆さんの資金需要に直接つながってきます。資金は、基本的には経済行為を行っている限りは、どうしても必要なものです。お金を握っているのは、各々の中央銀行なので、その金利動向が、これからの経済情勢を左右していくものになります。

(質疑応答)



(質問) ビットコインのような仮想通貨が国の通貨として認められる動きが拡大すると、金融の世界の秩序がなくなってしまうのではないですか。

(回答) 秩序というか、政府のコントロールが効かないところで物事が行われてしまうと、ある意味予想がつかない世界です。ビットコインとかには金利はなく、それ自体が売買の対象なので発想がまた違ってきますので、秩序の世界の外です。どういう歯止め、枠組みをつくっていくかが、国々の中央銀行、政府の試練なのかなと思います。最終的には、何かの罰則を設けるとか、そういう形でしか抑えられないのかもしれないかもしれません。

(お礼 糟谷副会長)



本日はありがとうございました。来週から日銀の政策金利も1.25%へ引き上げられるのは多分間違いないだろうと思います。そういう時宜を得たご講演を興味を持って聞かせていただきました。企業におかれても、円高の方がいい、いや円安の方がいいとかあると思いますが、経済の見通しでやきもきされておられるかも分かりません。住宅供給公社の方は、お金を借りて住宅を建てたりして、結構借金があるので、金利がちょっと上がるだけで、その支払いがかなり大きくなって経営に影響を及ぼすので、個人的には上がってほしくないなと思いながら聞かせていただきました。

Ⅱ 会員寄稿

「 兵庫県一低い高架橋のある風景 」

株式会社岡工務店 代表取締役 岡 澄彦 氏

終戦80年の夏を題材に執筆していた時期からはや1年。年一回の貴重な寄稿の機会なので、前回(2025年12月号)に書ききれなかったことを採りあげてみたい。

終戦に思いをはせて。

(執筆が毎年この時期となるので)

ここは大阪市住之江区。戦災を免れた古民家を撮って歩くのが好きな私には住之江区もなじみのある風景のひとつである。南北を走る阪神高速15号堺線。その高架下に流れる十三間川。元々は舟運や排水に供される川だったが今は市民の憩いの場として遊歩道と共に使われている。川から離れて、長屋の建ち並ぶ古いまちなみへ入ってみる。その中でも特に道幅の狭い一本の路地を選ぶと出現するのがRC造の防空壕である。これが、加賀屋家防空壕。



加賀屋家防空壕

自宅敷地内に私財を投じて終戦前に建造したものであり、加賀屋家とあるが、空襲時に地区の防空壕まで移動が困難な傷病者や高齢者のために造られた。内部には電灯や井戸も備え、所有者が建設会社を営んでいただけに当時の技術の粋を集めて建てられた防空壕だったが、本来の役目として使用されたのは数えるほど。現在はそのお孫さんが継承され「こういうもの(防空壕)が役に立た

ずに済むような時代であってほしいと願う」と、堅牢な倉庫として使用されている。画像にはないが同じ路地には井戸も残されていた。防空壕の次に映り込んでいる屋敷は、新田会所跡地。つまり新田開発の拠点であった。



新田会所跡地

線路はくぐるよ、腰かがめ。

前回の寄稿で淀川区の北方貨物線の低いガードに少しばかりふれたのでその続きとなる。同線の歴史は意外にも1918年と100年を越えており、大阪駅をバイパスして京都方面と神戸方面を結んでいる貨物にとっての大動脈である。貨物以外だと塚本信号場は大阪方面に直通運転が可能なデルタ線となっているため、宮原支所(操車場)に回送される特急「サンダーバード」の経路として活用されている。

残念ながら旅客列車としての運用はない。新大阪駅から出張などの帰途などで「大阪駅通るのが邪魔くさいな。直接塚本方面に行けたらいいのに。」は、よく思ったがまず実現はされない。

画像の場所は、田川踏切という。因みにこの場所自体、塚本駅構内として扱われる。踏切は貨物の上り(尼崎～宮原操)が使用し、貨物の下りと回送列車上下線は低い築堤を走行する。なぜにアンダーパス区間が浅い掘り方なのか謎だが、そのおかげで築堤橋梁の桁下は有効1.2mしかない。



貨物下り線



回送列車上り線



回送列車下り線



貨物上り線



回送列車下り線



回送列車下り線

周辺は市住と町工場が多いので自転車の往来は多く、頭を上げる位置を間違えれば大惨事になりそうな低いガードを自転車猛スピードで通行する。この田川踏切付近には4か所ほど踏切が連続し、俗に「撮り鉄」と言われる人たちには隣の踏切の方が人気ようだ。列車が見切れることもなく収められるからである。もっとも、非日常なアングルから撮るのが好きな私には集中して撮ることができて丁度いい。

というのも、同病のマニアとの場所の取り合いや、邪魔くさい交渉ごとを回避できる。カラオケでもヒトカラが好きな私の性分に合っている(笑)。ただ、橋梁の下に潜って撮る場合、頭上は車輪なので集中せざるをえない。すぐ先の踏切の警報機があることだけが接近を知らせる頼りである。この場所が大阪一低いガードであることは間違いないが、下には下がいる。前回お目にかけた京阪宇治の樋尻橋梁とタイ記録だが、兵庫県にはさらに低いガードが存在するし、首都圏に行けば98cmなどという猛者もある。

私自身、なぜ低いガードの虜になったのかわからないが、難所であればあるほど撮りたい！という、エベレストの前に震え立つ岳人のような気持になるから不思議なものである。田川踏切/第1開渠の場合ハードルは高く、結構な頻度で、近くにある伊丹空港に向けて旅客機が上空から飛来してくるので航空機まで列車に寄せて撮ることができれば最高だ。

阪堺線今池町付近

桁下 1.52m



路面電車ながらオーバークロス区間 かつて南海天王寺支線が下を交差していた築堤勾配区間の名残である。

JR 福知山線伊丹駅付近

桁下 1.7m



JR 東淀川東側及び内観

8線相当幅で桁下 1.5m



もともと水路だった。新庄第2用水路橋梁が正式名称。

阪急京都線富田駅付近

桁下 1.5m



趣味的な観点からは面白いがなくてはならない生活道路。開かずの踏切が多いので一度入ると出られない、ダンジョンのような道路づけである。

兵庫県で一番低いガードは加古川にある！

山電別府駅の西に桁下 1.1m のガードが存在する。山電及び阪神が往来するので上下線合わせて毎時 10 本ほどの通過が見られる。このガードの出自だが農業水路だったのでは・・・と推測する。徒歩でも離合は難しいガードの幅なので、対岸で「どうぞ」「おさきに」と言いながら通行するコミュニケーション文化がある。正式名称は新野辺架道橋。日本一低い説があるが、残念ながら上位に君臨するのは JR 内房線の 99 cm (千葉県市原市)、西武鉄道多摩川線の 98 cm (東京都府中市) と文字通り「西高東低」のようだ。

山電別府駅西付近

桁下 1.1m



わがまちのダンジョン「ヌーベル甲子園口」。

私の居住地域も JR の低い築堤があつて南北交通が遮断されていたり、古い道路区画のため一方通行が多かったりと、大型連休ともなれば他府県ナンバーの車が袋小路を出るに出入れず立ち往生している光景は珍しくない。

そんなダンジョンのような地域にダンジョンのようなテナントビルが商店街に存在する。「ヌーベル甲子園口」。地上 3 階地下 2 階。1979 年築。

外観から想像つかないが半階ずれた中二階的な構成。今、自分が何階にいるのかわからなくなる。入居しているのはすべてスナックと小料理屋。階段、段差が多く、廊下もクランク的な形状で、酔って歩いたらけつまづきそうだ。

設計は安藤忠雄氏による。入居率は高い。

ヌーベル甲子園口



今回、一年待つて身近なところにある低いガードを中心にお届けしてまいりましたが、次回はまた一年後・・・でしょう。次回は「日本一狭い〇〇」について採り上げてみましょうか。

Ⅲ 理事会の開催

令和8年度第4回理事会が開催されました。

(第4回理事会)

と き： 令和8年9月10日(木)14時～
場 所： 神戸三宮東急 REI ホテル
参加者： 10名
(理事8名、監事2名)

議 題： 令和8年度事業計画
令和8年度予算執行状況
令和8年度会報編集報告
退会報告(3会員)
建築会創立80周年記念事業

Ⅳ お知らせ

◎行事予定

1 月例会

日時：令和8年10月7日(水)
12:00～14:00
場所：神戸三宮東急 REI ホテル
内容：「チャレンジする企業を応援する」
ひょうご産業活性化センター
常務理事 円増 万司 氏

2 研修交流会

日時：令和8年10月28日(水)
9:03 インスタート
場所：城山ゴルフ倶楽部

3 視察会(予定)

日時：令和8年11月9日(月)
13:30～15:30
場所：兵庫県立工業技術センター

4 事業推進委員会(予定)

日時：令和8年12月9日(水)
17:30～19:15
場所：梅の花

5 新春交流会(予定)

日時：令和9年1月7日(木)
17:30～19:15
場所：神戸三宮東急 REI ホテル

◎退会報告

次の3会員から退会届(令和8年9月末)
がありました。

1. 株式会社 ダイドー
2. 丸正ユニシン 株式会社
3. 株式会社 みかた建築事務所

長年にわたり、当会の運営にご貢献いた
だきありがとうございました。

◎編集後記

異常とも言える暑さや大雨が続いた2026年
は自然の厳しさを改めて突きつける一年とな
りました。もはや「温暖化だから仕方ない」
と済ませるのではなく、一人ひとりが危機感
を持ち、自らの命と健康を守る行動をとるこ
とが求められています。会員の皆様におかれ
ましては、くれぐれもご自愛いただき、日々
の活動にお励みくださいますようお願いして
おります。

事務局：足達和則 石井滝実子
電 話：078(996)2851
FAX: 078(996)2852
e-mail: archit-k@axel.ocn.ne.jp

